

□ 寄稿 □

御忌法要に参詣

柳平 啓明

過日、浄土宗大本山百萬遍知恩寺の平成30年度御忌法要に、参詣する機会に出逢えた。

長野教区法光寺住職(小口秀孝上人)が、平成30年度大本山百萬遍知恩寺御忌大会の、初讃唱導師を拝命されたので、諏訪から190名の人々が、参詣された。

当日は、朝から雨が降り出していた。午前11時日中法要は始まった。120名の僧侶たちは、荘厳服を被着し入堂。この中には諏訪組の法類13名もいた。最後から二番目に払子を持った小口上人が、また最後には同じく払子を持った知恩寺法主福原隆善台下が入堂された。小口上人が入り口でお迎えの中、我々信徒たちは、耳慣れない調子の読経が響く中、各揭示寺名の席に着いた。法要は香偈・三宝礼・奉請文(一心奉請宗祖円光東漸慧成弘覺慈教明照和順法爾大師願入道場受我供養三

唱)・懺悔偈・十念・表白(御忌会表白)・開經偈・誦經・礼讃・御法語(一枚起請文)・撰益文・念仏一会・自信偈・御回願・十念・総願偈・三唱礼・送仏偈・十念・退堂と進み法要は終わった。小口上人の高座での所作一つ一つに見入った。そのあと、百萬遍の通称で知られる円周約110センチ重さ320キログラムの球の数1080顆(善導大師・法爾大師・源智上人等のお姿の大願もある)の大念珠による念珠繰りに参加し、その後「利剣名号」の掛け軸等を拝観することができた。昼食には、祝膳精進鉄鉢料理(仕出し割烹泉仙本店)をいただき、雨の午後二時頃知恩寺出発帰路につく。各寺檀家を見る時、小口上人の檀家ではない、埴原田の紫雲寺と岡村の正願寺の檀家が参加されていたのは、かつて、紫雲寺の住職であった方が、昭和57年(1982)浄土宗総本山知恩院の門跡になられたり、正願寺の住職であられた方が大正12年(1923)6月大本山百萬遍知恩寺の法主になられた方が、おられたからではないかと思うのであります。

法然上人が往生されて800年が過ぎ、現在来るべき850年に向かって、大本山知恩寺では、その準備にかかっているようであった。

(茅野市豊平)